

VMXNET3アダプタを使用するためのVMWareでのVAの設定

内容

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[概要](#)

[手順](#)

はじめに

このドキュメントでは、Cisco UmbrellaのE1000の代わりにVMXNET3アダプタを使用するために、VMWareのVAを変更する方法について説明します。

前提条件

要件

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

使用するコンポーネント

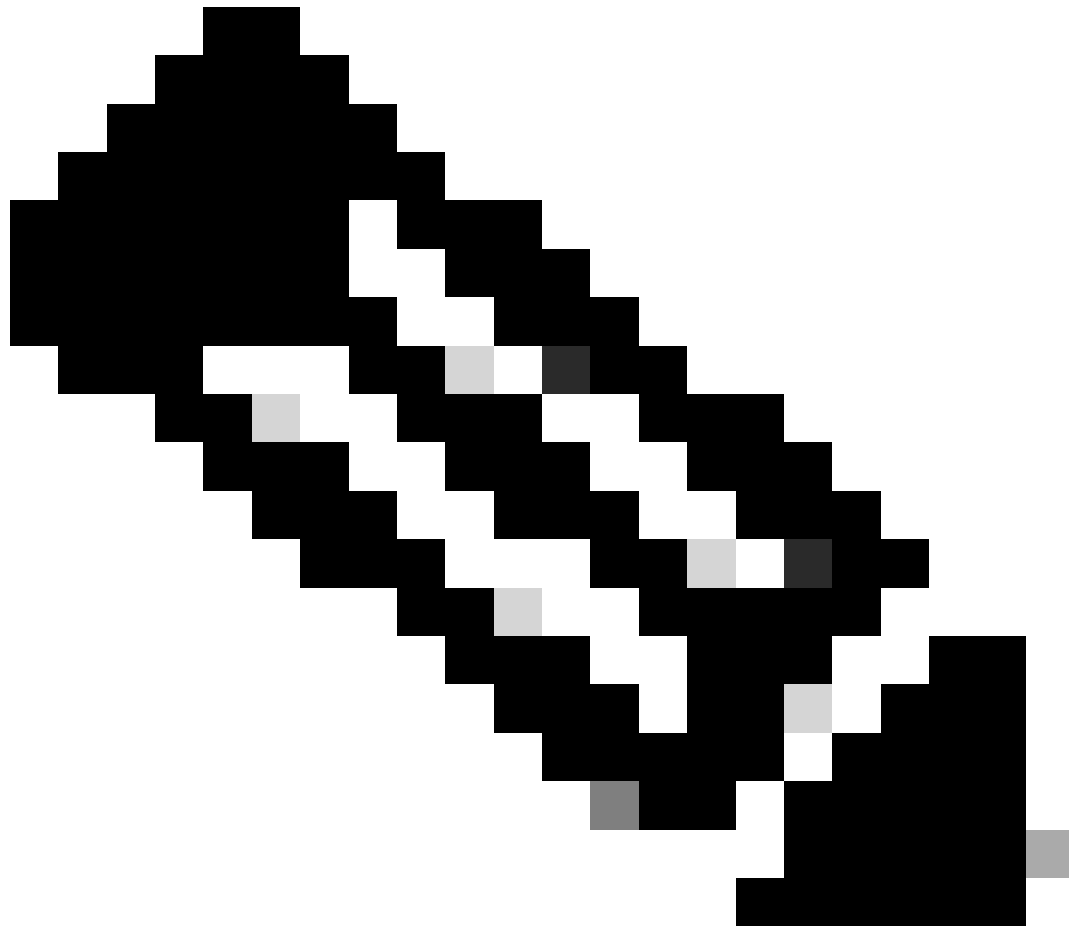
このドキュメントの情報は、Cisco Umbrellaに基づくものです。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな（デフォルト）設定で作業を開始しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

概要

VMWareで仮想アプライアンス用にVMXNET Generation 3 (VMXNET3) アダプタを使用すると、環境での動作が向上することがわかりました。VMXNET3アダプタは、従来のE1000 NICと比べてオーバーヘッドが少ないため、パフォーマンスが向上します。Umbrellaには、何らかの特定の推奨事項はありません。ただし、VMXNET3設定はサポートされています。

手順



注：これらの手順は、MACアドレスを変更します。新しいVMXNET3アダプタで同じMACアドレスを維持する必要がある場合は、E1000 MACアドレスをメモしてから削除する必要があります。新しいアダプタを作成するときは、MACアドレスを手動に変更し、元のE1000 MACアドレスを入力する必要があります。

前のアダプタから仮想アプライアンスを切り替えてVMXNET3を使用するには、次の手順を実行します。

1. VMWareコンソールで、仮想アプライアンスの電源をオフにします。
2. 仮想アプライアンスを右クリックし、Settingsを選択します。
3. Network Adapter 1を選択し、次にRemoveを選択します。
4. Add> Network Adapterを選択します。
5. TypeでVMXNET3を選択します。

6. 適切なネットワークを選択します。
7. Nextを選択し、次にOKを選択します。
8. VMWareコンソールで、仮想アプライアンスの電源をオンにします。
9. VAコンソールとUmbrellaダッシュボードの両方で、Umbrellaリゾルバとの通信エラーを確認します。

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。